

小・中学生のアンケートにみる博物館利用の実態と反応

笹岡 昭平

I 調査のねらい

県内小・中学校の児童生徒が学習活動の一環として教職員の引率で秋田県立博物館（以下当館という）を利用する場合、その利用の実態と展示内容等に対する反応を調査分析し、当館の普及活動の基礎資料を得ることを目的に調査を実施した。

以上のことから、調査のねらいとして次の5点を設定した。

- 1) 利用回数（入館経験、引率による入館経験）
- 2) 興味関心を示す展示部分とその理由
- 3) 興味関心がない理由
- 4) 再度来館見学希望の有無
- 5) 当館に対する感想など

II 調査の計画

1. 調査対象

昭和56年5月23日から同6月5日までの期間中に、当館に団体入館した県内小学校5・6学年の児童と中学校生徒を対象とした。対象者数などは表1に示した。

2. 調査方法

- a 質問紙法
- b 用紙の配布と回収

入館予定の学校に対し、事前にアンケートの実施を依頼した。入館当日に用紙を引率教員に一括配布し、帰校後に児童生徒に記入してもらい、郵送により回収した。

3. 調査問題

次ページの「アンケート」参照。

III 調査結果と考察

1. 入館経験（調査1）

小・中学生の入館経験の比較を表2に示した。小・中学生が選択肢 アはじめて、イ2回め、ウ3回め、

エ4回以上を選択する傾向（以下、小・中学生の選択傾向という）には顕著な差がある。小・中学生の間に差がみられるのは、小学生が アはじめて に集中するのに対して、中学生は エ4回以上が多いためと考える。

なお、小・中学校それぞれについて、男・女が選択肢を選択する傾向（以下、男女の選択傾向という）に

表1 調査対象

校種	校数		人数	備考
小学校	10	男	330	○5年生が7校、6年生が1校、5・6年生合同2校
		女	337	
		計	667	
中学校	4	男	245	○1年生だけ
		女	237	
		計	482	
		合計	1,149	

表2 入館経験

校種	調査人数	ア はじめて	イ 2回	ウ 3回	エ 4回以上	無答	検定
小	667	68.8	19.0	5.8	6.1	0.1	】**
中	482	8.5	16.0	13.7	61.8	0	

（注1） 各選択肢についての数字は調査人数に対するパーセントを表す（以下同じ）。

（注2） 検定欄の*、**はそれぞれ有意水準5%、1%で有意差があることを示す（以下同じ）。

表3 引率による入館経験

校種	調査人数	ア 1回	イ 2回	ウ 3回	エ 4回以上	無答	検定
小	208	92.8	2.9	0	0	4.3	】**
中	441	24.0	40.1	25.2	9.5	1.1	

ア ン ケ ー ト

このアンケートは博物館の利用のようすを調べるものです。より良い博物館にするために役
だてたいと思いますので、ご協力をお願いします。

秋田県立博物館

1. この博物館に見学に来たのは、ぜんぶでなん回めですか。つぎのA～Eからひとつえらんで、その
記号を答えてください。

A はじめて I 2回め U 3回め E 4回以上

1.

2. (1.で2回以上来たひと)、そのうち先生の引率で来たのは今回もふくめて何回ですか。つぎのA～
Eからひとつえらんで、その記号を答えてください。

A 1回 I 2回 U 3回 E 4回以上

2.

3. この博物館の展示をみて、「おもしろいなあ」、「なるほどなあ」、「ふしぎだなあ」と思った部分が
あったら、下の(例)にならって□のなかに、ひとつだけかいてください。そう思う部分がなかつ
たら「ない」と答えてください。 3. (例) けもの歯(第2展)

4. (3.で「おもしろいなあ」、「なるほどなあ」、「ふしぎだなあ」と思った部分を見つけたひと)はつぎ
のA～シからその理由(わけ)をひとつだけえらんで記号を答えてください。ぴったりの理由がない
ときは スその他() に自由にかいてください。

A 身近かなものだから I 趣味とあうから U 名まえを知っているから

E 美しいから O はじめて見たから K わかりやすいから

K めずらしいから Q 動くから X ボタンを押せるから

C よい資料だから S 奇ばつだから H かつこうがよいから

4.

S その他()

5. (3.で「ない」と答えたひと)は、その理由(わけ)を下のA～ケからひとつだけえらんで記号を
答えてください。ぴったりの理由がないときは、コその他() に自由に記入してください。

A 興味がないから I なんとなくわからないから U むずかしいから

E きもちがわるいから O 内容がふくぎつだから K めずらしいものがないから

K ゆっくり見学できなかったから Q 説明がたりないから X 資料がわるいから

C その他()

5.

6. もういちど、この博物館に見学に来たいと思いますか。下のA、Iのうち、どちらかひとつをえら
んで、その記号を答えてください。

A 思う I 思わない

6.

7. この博物館を見学して感じたこと、ある展示部分についての連想・アイデア・ひらめき・つづきや
発展など、その他なんでもよいですから下のらん自由に書いてください。とくになにもなければか
かなくてもよいのです。

※ 答えかたがまちがっていないかどうか、もういちど見なおしてみてください。たとえば、4と
5はどちらかひとつを答えることになります。

※ アンケートに協力してもらって、どうもありがとうございます。

() 学校 () 年 () 組 男・女 () 番 整理番号

は差が認められない。

2. 引率による入館経験 (調査2)

入館経験2回以上の小学生208名、中学生441名についての引率入館経験を表3に示した。ここでは、小・中学生の選択傾向には顕著な差が認められる。

入館経験2回以上の小学生の大部分は、ア1回と回答している。このことは小学生全体の約30パーセントが個人的に1回以上の入館経験があることを表している。

中学生はイ2回が多く、次いでウ3回、ア1回となっている。

なお、中学生では、選択肢イ2回(男35.0、女45.4%)とウ3回(男29.3、女20.8%)については男女の差が認められるものの、小・中学生とも男女の選択傾向には差が認められない。

3. 展示に対する興味関心 (調査3)

展示に関する興味関心の有無をまとめたのが表4-1である。この表では小・中学生の選択傾向には顕著な差が認められる。小・中学生とも、アあるが多いが、中学生は小学生に比べて、イないが多い。これらのことは入館経験とかかわりが深いと思われる。

つぎに、表4-2に示すように、中学生では男女の選択傾向に差が認められる。これは、イないに男女差があるからで、中学生男子に興味をもたない生徒が多いと考えられる。

なお、小学生については男女の選択傾向に差が認められないので、表を割愛した。

4. 各展示部分と興味関心の傾向 (調査3、4)

a. 興味関心を示した展示部分

調査3、4において興味のある展示部分と興味をもった理由を調査したが、選択された展示部分の上位10

表4-1 展示に対する興味関心

校種	調査人数	アある	イない	無答	検定
小	667	91.2	7.2	1.6	} ※※
中	482	77.0	18.9	4.1	

表4-2 展示に対する興味関心-中学生-

性別	調査人数	アある	イない	無答	検定
男	245	75.1	22.4	2.4	} ※
女	237	78.9	15.2	5.9	

位までを小・中学生別に次に示した。

(小学生)

〈展示部分〉	〈最も多い理由〉
1) グリーントフ活動(1展)	ク 動くから
2) 自然の中の生き物(2展)	キ めずらしいから
3) 山から出たクジラ(1展)	キ //
4) 昔の人びとの生活(1展)	キ //
5) 化石(1展)	キ //
6) けもの歯(2展)	キ //
7) 地球の誕生(1展)	キ //
8) 鉱産資源(ケイ光鉱物)(2展)	エ 美しいから
9) デスモスチルスと黒鉱(1展)	オ 初めてみた
10) 縄文時代(岩井堂洞穴)(1展)	オ //

(中学生)

〈展示部分〉	〈最も多い理由〉
1) 自然の中の生き物(2展)	キ めずらしいから
2) グリーントフ活動(1展)	ク 動くから
3) 昔の人びとの生活(1展)	キ めずらしいから
4) 山から出たクジラ(1展)	コ よい資料だから
5) 縄文時代(岩井堂洞穴)(1展)	コ //
6) 縄文時代と秋田(1展)	コ //
7) 第1展示室のすべて	イ 趣味とあうから
8) デスモスチルスと黒鉱(1展)	キ めずらしいから
9) 地球の誕生(1展)	カ 理解できるから
10) 人類の進化(1展)	コ よい資料だから

以上のように、小・中学生とも、似た傾向を示している。小学生に比べて、中学生は「縄文時代と秋田」、「人類の進化」、「第1展示室のすべて」などを多くとりあげているが、関連事項を社会科で学習中であることが原因と思われる(調査7、感想文による)。

これらの展示部分を選んだ理由については、この上位10位の範囲内では、小学生の場合はキめずらしいからを、中学生はコよい資料だからなどを多くあげている。

調査3、4で小・中学生が選択した展示部分とその理由は多岐にわたっているので、

- 1) 選択した展示部分を各展示室ごとに集計
- 2) 展示部分を選択した理由を集計して、次のb. 各展示室に対する興味関心、c. 興味関心の理由に分けて考察した。

b. 各展示室に対する興味関心

興味関心を示した展示部分を各展示室(第1~3展)ブロックにまとめて集計したのが、表5-1である。これによると、小・中学生の選択傾向には差がなく、第1展、第2展、第3展の順であった。

小学生は表5-2に示すように男女の選択傾向には顕著な差があり、第2展と第3展について男女差が認められる。女子は男子に比べて、「第2展」が多く、「第3展」が少なくなっている。

なお、中学生男女の選択傾向には差が認められない。

表5-1 各展示室に対する興味関心

校種	調査人数	第1展	第2展	第3展	検定
小	608	62.5	33.7	3.8	
中	371	65.0	29.9	5.1	

表5-2 各展示室に対する興味関心-小学生-

性別	調査人数	第1展	第2展	第3展	検定
男	296	65.5	28.4	6.1)**
女	312	59.6	38.8	1.6	

表6-1 興味関心の理由

校種	調査人数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	検定
小	608	0.5	5.9	1.2	4.4	21.4	12.5	24.7	9.5	2.5	8.1	2.1	2.0	5.3)**
中	371	1.3	7.5	0.5	2.2	7.3	15.1	22.9	4.6	3.8	17.0	3.0	4.3	10.5	

表6-2 興味関心の理由 -小学生-

性別	調査人数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	検定
男	296	0.3	7.4	1.7	3.7	18.6	10.1	25.0	12.8	2.0	6.8	2.4	3.0	6.1	*)
女	312	0.6	4.5	0.6	5.1	24.0	14.7	24.4	6.4	2.9	9.3	1.9	1.0	4.5	

表6-3 興味関心の理由 -中学生-

性別	調査人数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	検定
男	184	1.1	12.5	0.5	1.6	5.4	9.8	21.2	3.8	4.9	17.4	4.3	8.2	9.2)**
女	187	1.6	2.7	0.5	2.7	9.1	20.3	24.6	5.3	2.7	16.6	1.6	0.5	11.8	

表7 興味関心がない理由

校種	調査人数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答	検定
小	48	12.5	16.7	6.3	2.1	4.2	6.3	33.3	4.2	0	10.4	4.2	
中	91	13.2	8.8	3.3	0	1.1	7.7	39.6	1.1	1.1	20.9	3.3	

c. 興味関心の理由

各展示部分を選んだ理由ア~ス(調査問題参照)について、小・中学生の数をまとめたのが表6-1である。この表では、小・中学生とも選択肢キめずらしいからが多く選ばれているが、小・中学生の選択傾向には顕著な差が認められる。その特徴は、小学生は中学生に比べて選択肢オはじめて見たから、ク動くからが多く、中学生は選択肢コよい資料だからスその他において小学生と顕著な差が認められる点にある。

次に、興味関心の理由ア~スについて、小・中学生男女を比較したものが表6-2、表6-3である。

表6-2から、小学生の場合は、選択肢ク動くからに男女差が認められる。

表6-3では、中学生男女の選択傾向には顕著な差があり、それは選択肢イ趣味とあうから(男子が多い)かわかりやすいから(女子が多い)シかつこうがよいから(男子が多い)などにおける男女差によるものとする。

5. 興味関心がない場合(調査3、5)

調査3で興味関心がないと回答したのは、表4-1から小学生7.2%(48名)、中学生18.9%(91名)で、

中学生の多いことが注目される。一方、その理由ア～コ（調査問題参照）をまとめた表7から主なものとして、選択肢キゆっくり見学できなかったから、ア興味がないから、イなんとなくわからないから、カめずらしいものがないから、コその他（なかでも多いのは何回も見たから）などがあげられている。「ゆっくり見学できなかったから」という理由は感想文にも散見される）。

なお、小・中学生の選択傾向には差が認められない。

これらの理由については、引率する指導者と受け入れる当館の両者で解決策を検討すべきであると考え。また、他の理由についても、効果的な事前・事後指導により、問題点が解決できるのではないと思われる。

6. 再度来館の希望（調査6）

「再び来館して見学したいと思う」と回答した児童生徒は小学生92.1%、中学生84.0%で、大勢を占めている。また、「思わない」と回答した児童生徒は小学生7.3%、中学生15.4%で、小・中学生間で顕著な差が認められる。この数字は調査3（表4-1）で「興味関心がない」と回答した数字（小学生7.2%、中学生18.9%）と類似している。

小・中学生の男女についての調査結果を表8-2、表8-3に示した。小・中学生とも男子は女子に比べて、「再び来館したいとは思わない」と回答したものが多くなっている。調査3（興味関心の有無、表4-1、表4-2）と合わせ考えると、中学生男子には、

表8-1 再度来館の希望

校種	調査人数	ア思う	イ思わない	無答	検 定
小	667	92.1	7.3	0.6	} ※※
中	482	84.0	15.4	0.6	

表8-2 再度来館の希望—小学生—

性別	調査人数	ア思う	イ思わない	無答	検 定
男	330	89.4	10.3	0.3	} ※※
女	337	94.7	4.5	0.9	

表8-3 再度来館の希望—中学生—

性別	調査人数	ア思う	イ思わない	無答	検 定
男	245	79.2	20.0	0.8	} ※
女	237	89.0	10.5	0.4	

「展示に興味がない」、また、「来たいとは思わない」と考えている生徒が多いといえそうである。

7. 感想文（調査7）から

アンケートに自由記述の感想を取り上げたのは、

- 1) 選択肢による回答では得られない「何か」がつかめるのではないか。
- 2) 調査3、4、5における興味関心とその理由の傾向を裏づけるような内容が得られるのではないか、
- 3) 要望や管理上の諸問題が把握できるのではないか、などを考えたからである。

小学生の文は素朴な感動を表しており、また、各展示部分にわたって感想を述べているのに対し、中学生の文は概括的、批判的でいかにも中学生らしいものが多かった。次にその内容を感想、疑問、展示に関する要望、その他の項に分けて、その概要を述べる。

a. 感想

小学生の感想は前述したように、各展示部分にわたって具体的に述べられており、取り上げられている展示部分の傾向や数は前述の4、a. 興味関心を示した展示部分（上位10位）の傾向とほぼ一致する。中学生の感想は次の1)、2)にまとめられる。

- 1) 何回も見たからあきた。あほらしい。いつ来ても同じものばかりで、替えたほうがよい。
- 2) 何回来てもあきない。何回も来たが、今回は自分の調べるポイントをきめてじっくり見学したので、とてもよい勉強になった。

b. 疑問

これは小学生だけで、中学生にはみられなかった。その疑問は展示資料に関するものが多く、たとえば、「地球の誕生がふしぎだ」、「クジラの骨はくさらないのか」、「土器はどのようにして作ったのか」、「昔のことをどのようにして調べたのか」などが多かった。

c. 展示に関する要望

展示内容や展示方法に関する要望は小・中学生とも同じような内容のものが多かった。その主なものを次にあげた。

- 1) 歴史年表を随所に掲げ、展示場面が何年前かわかるようにしてほしい。
- 2) 説明文は大きき文字で、わかりやすく、くわしく書いて、漢字にはふりがなをしてほしい。また、明るいところに掲示してもらいたい。

- 3) 動きのあるもの（たとえば、グリーンタフ活動のようなもの）を展示してほしい。
- 4) インターフォンによる説明、ボタン操作による演示、VTRによる説明などをふやしてもらいたい。
- 5) いつも同じ内容である。替えてほしい。
- 6) もっと別の方向（視点の意か）からの資料集めをしたらどうか。
- 7) おもしろいもの、めずらしいもの、昔の資料、よい資料、科学的内容の展示などをふやしてほしい。

d. その他

- 1) 暑苦しい、息苦しい、においがする。
- 2) 全般的に暗い。さしつかえない部分は思いきって明るくしてはどうか。
- 3) 休む場所がなく、疲れた。
- 4) 時間がなくて残念だ、もっと時間があればよい。
- 5) メモをするためのテーブルなどがあればよい。
- 6) 教える人がとても親切でわかりやすかった。もっと多くの教える人がいるとよい。

感想文の内容は集約しにくいので、以上のような主観的なまとめ方と考察になったが、内容はいずれも示唆に富む 有益な意見であると考えてる。

VI まとめ

1. 入館経験

小学生は「はじめて」が多く、中学生は「4回以上」が多い。

2. 引率による入館経験

小学生は「引率入館ははじめて」が多い。中学生は経験回数が多い。

3. 展示に対する興味関心

小・中学生とも「興味関心がある」が多いが、中学生男子では「興味関心がない」が多かった。

4. 展示に関する興味関心の傾向とその理由

小・中学生とも1展、2展、3展の順に興味関心が集まっている。理由については「めずらしいから」が小・中学生に共通して多いが、選択傾向には小・中学生間および男女間で差が認められる。

5. 興味関心がない理由

ゆっくり見学できなかったことが興味関心を持ってない理由として多くあげられている。

6. 再度来館の希望

「再び見学に来たい」との希望が圧倒的に多いといえる。中学生男子に「ない」が多い。

おわりに、この調査にご協力くださった学校、諸先生、児童生徒の皆さんに深く謝意を表したい。